

年の瀬 各地で食料支援

生活に困っている人たちを励ます、食料支援などの取り組みが各地で取り组まれました。

↓各地の取り組みの面

大津市のNPO法人「大津夜まわりの会」(永芳明理事長、弁護士)は26日、生活に困っている人たちを励ます越冬支援のつどいを市内の膳所診療所駐車場で開催しました。参加者に、もちやカップめん、マスクなどの入った「お楽しみ袋」やコメ、紅白まんじゅうなどが手渡され、豚汁が振る舞われました。今年で21回目。

永芳理事長は、コロナ禍で苦しむ国民への支援について「子育て世帯には10万円相当の給付をするというごですが、困っているのは子育て世帯だけではない」と述べました。

初めて参加したという男性

大津 “困っている人励まそう”



“お楽しみ袋”を受け取る参加者ら＝26日、大津市

(80)は「フルタイムのパートとして食品会社の工場で5年間働いていましたが、今年8月、工場の移転で退職を余儀なくされました。就職活動をしていますが、仕事がまだ見つかりません。生活保護を申請していますが話しました。年金が月5万円ほどだといふ人暮らしの男性(83)は「こういう支援はありがたい」と話しました。

食料支援・生活相談 全国で

健康診断ありがたい

熊本

熊本県民主医療機関連合会の「いのちとくらしを守る相談村」が26日、熊本市の水前寺



血圧をチェックする人たち＝26日、熊本市

江津湖(すいせんじえつこ)公園で開かれま

相談や生活相談、物資支援を行いました。82人が血圧検査などを受けたり、くらしの困りごとを相談していま

熊本労連、「反貧困ネットワーク」のメンバーら50人が参加し健康

健康チェックを受け

「健康チェックを受けたい男性(72)は「気軽に受ける健康診断はありがたい。血糖値が正常値でよかったです」と話しました。生活相談には、「収入が少なく苦しいので生活保護を利用したい」などの話しました。

給付金家なく届かず

福岡

コロナ感染の影響が続く中、生活困窮者、路上生活者などに向け、法律、労働、健康、生活相談や食料支援をする「街角なんでも相

相談がありました。

光永隆丸会長(医師)は、長く続く新型コロナウイルス感染症

が人々の暮らしに与えた影響は大きくて深刻だとして、「いのちとくらしを守る支援活動に全県で取り組みたい」と述べました。川

上和美副会長(看護師)は「相談会や支援活動の内容・課題を各事業所で共有し、次の支援につなげたい」と話しました。

余る生乳に心痛める

北海道帯広

生活に困窮する学生

や青年にクリスマスのプレゼントをと、北海道帯広市の日本民主青

食料支援に並ぶ市民ら26日、福岡市



女性はコロナ禍に加え、精神疾患で仕事がままならない現状を述べ、無職の男性(65)は「給付金はホームレスには届かない」と政府のコロナ支援への不満を語りました。

相談ブースには女性専用も設置。ホームレス状態の女性が「仕事を紹介してほしい」と相談。女性は、生活保護の申請にためらっていません。

いの健福岡の渡邊宏事務局長は、生活保護の扶養照会が壁になっていると指摘。「日々の生活に追われ、抱えている問題を解決する余裕がない方が多い。取り組みを継続することで、相談につなげていきたい」と語りました。

食料品を運ぶ学生たち24日、北海道帯広市



にたまたま通りがかつた学生たちが無料配布を次々に利用。生活相談も寄せられました。

年同盟十勝地域班は24日、帯広畜産大学の近くで8回目の食料支援を緊急に開催しました。

「コロナの影響で収入が減った親から「アルバイトを増やして家計を助けてほしい」と言われている2年生は、「保存が利く食べ物や生理用品はいくらあっても困らない」とうれしそうです。車の荷台にとっさり積まれた「メ」を、寮生活の学生たちがお土産にと持ち帰りました。